

汽水湖にふさわしい湖沼保全策の検証及びヤマトシジミ資源回復のための活動—宍道湖をモデルとした提案—

イベントの延べ参加者数	300人
イベント参加者の満足度	70%
活動の全体目標に対する達成度	80%



湖底に「ケイ酸」を供給する技術開発の実験

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 「湖沼保全施策」といった専門的なテーマを、シジミ資源量の推移と照らし合わせ、一般の人が身近な問題と捉えられるよう工夫した。シンポジウムには約300人が参加し、そこで今後まとめる提案の方向性を示した。
- 工夫** 活動②の湖の保全施策の検証については、調査結果をグラフに反映させ、シンポジウム用資料集に掲載した。

課 題

宍道湖のヤマトシジミの資源回復の方策を探るなか、豊かな生物相の存在、漁業、良好な景観や水質の両立が求められると認識した。汽水湖特有の保管理策の提案を目指す。

活動内容

活動テーマの柱となるのは次の二つの活動である。

- ①宍道湖の底質改善のための調査活動：1) 青潮対策としての「硫化鉄化法」の確立と普及活動。2) 「ケイ酸」に注目したケイ酸供給の技術検討。
- ②宍道湖が湖沼法の指定湖沼となった以降の施策が、湖や流入河川に与えた影響の検証：ヤマトシジミ資源量調査や他水域における施策についての資料収集・分析。最終年度には上記調査活動をもとに、宍道湖をモデルとした提案をまとめる。



実験場で湖の環境を再現するための測定器

今後の課題

底質改善に関する活動：公開実験の実現。地域の潜在資源を活用し、低コストで有効な底質の改善が見込まれる技術の開発を、広く周知していきたい。本活動の成果をもとに、将来的にはシジミ漁場で実証実験を目指す。